

利府でキンボール全国大会

98チーム白熱プレー

直径1・2メートルのボールを使って3チーム対抗で得点を競うキンボールスポーツの全国大会「第19回ジャパンオープン・フレンドリーカップ」が8日、利府町のセキスイハイムスーパーアリーナで開幕した。北海道から沖縄県まで全国の98チーム約500人が出場し、白熱したチームプレーを繰り広げた。

県内開催は2005年以来2回目。チームは4人構成。3人で球を支え、もう1人が「オムニキーン、ブランク」などと、狙うチームのゼッケン色をコールして球を打つ。呼ばれたチームはボールが床に付く前にレシーブできれば次はヒットに回れるが、ボー



熱戦を繰り広げたキンボールスポーツのジャパンオープン・フレンドリーカップの様子＝利府町のセキスイハイムスーパーアリーナで

ルが床につけば他の2チームに得点が入る。この日は小学生や初心者、一般の部があった。複数の小学校混合

チームで臨んだ地元利府の小学6年、嶺岸奏さん(12)は「練習してきた力を出し切ったが、相手はもっと強

るために強いボールも取りにいかねければ」。同6年の竹下和花さん(12)は「いろんな学校の子と対戦し仲良くなれて楽しい。ボールを強く、遠くに飛ばせるようになりたい」と話した。

イチゴ狩りのシーズン到来

山元

イチゴ狩りのシーズンが到来した。山元町山寺稲美の「山元いちご農園」(岩佐隆・代表取締役)で今シーズンのイチゴ狩りが10日から始まる。ピニールハウスにすらりと並んだ高設栽培の棚から真っ赤に実ったイチゴがぶら下がり、摘んでも



イチゴの摘み方を説明する岩佐さん＝山元町山寺稲美の山元いちご農園で

らうのを待っている。東日本大震災で甚大な被害を受けた山元町のイチゴ農家。岩佐さんらイチゴ農家3軒は2011年6月に会社組織の同農園を設立した。栽培面積は当初の

伝統の技と心—手づくりの酒

一蔵

電話 0229-55-3322 (代)

お通は20歳になってから

を狙われてしまった。チームメートの助言で後半の試合は持ち直し、連携もうまくいき始めたが、あえなく予選敗退。それでも仲間との一体感を覚えた。1、2回の練習で臨んだという石巻市の中学校教職員チームは勝ち進んで準優勝。日ごろのチームワークがプレーを通じていっそう高まるのがこの競技の妙味だと感じた。

【百武信幸】